

グループを挙げて地域社会や次世代育成に貢献

基本的な考え方

NAGASEグループの経営理念では、「社会の構成員たることを自覚する」とともに、「会社の発展を通じて、社員の福祉の向上と社会への貢献に努める」ことを掲げています。事業活動と社会貢献活動の両輪で、より良い社会の実現に貢献していきます。

広く社会へ貢献

林原ライフセミナー

(株)林原では2017年度から、一般の方々を対象とした講演会「林原ライフセミナー」を開催しています。人々の生活に密着した内容をテーマに選び、消費者の皆さまに役立つ情報の発信を行っています。

2023年は、京都府立医科大学の内藤裕二先生に、老腸相関(老化と腸の関係)、健康寿命延伸をテーマに『腸活でカラダもココロも健康に!! ~腸内細菌の多様性が健康長寿の秘訣~』と題してご講演いただきました。



第5回林原ライフセミナーの様子



小学生を対象とした化学実験学習

ナガセケムテックス(株)では2019年より、兵庫県たつの市が運営する小学生の環境学習グループ「たつのこどもエコクラブ」を、同社の播磨事業所に招待するイベントを行っています。

同社の環境に優しい製品を使って簡単な実験を体験、工場排水を浄化する仕組みの説明をするなど、楽しく学習していただき、参加者からも好評を得ています。



体験型イベントで実験結果を発表する様子

地域文化の発展

林原美術館

(株)林原が運営支援している林原美術館は日本をはじめとする東アジア地域の絵画や工芸品と、旧岡山藩主池田家伝来の大名調度品を中心とするコレクションを所有しています。これら美術品の保存ならびに調査研究を行い、独自の企画展等を通じ広く一般の観覧に供し、地域及び国の文化財の研究ならびに文化の向上に寄与しています。

2023年に、前川國男氏の設計による本館と明治に移築された長屋門と蔵が、国の登録有形文化財(建造物)へ登録されました。また、2024年には開館60周年を迎えることから、記念展や各種の記念イベントを企画しています。



林原美術館(長屋門)



建物外観(本館)

科学技術者の支援・育成

長瀬科学技術振興財団

日本の科学技術振興の一助となるべく、1989年に長瀬科学技術振興財団を設立、2011年に公益財団法人化しました。有機化学及び生化学などの分野に関する研究開発を助成することで科学技術の振興を図り、社会経済の発展に寄与することを目的に活動しています。

2023年は有機化学分野・生化学分野を合わせて応募総数301件の中から選ばれた25名の研究助成金受賞者に、それぞれ助成金250万円と「長瀬研究振興賞」が授与されました。



受賞者の皆さんと財団メンバー



贈呈式理事長挨拶

アスリート支援

アスリート支援

NAGASEグループではアスリートの支援を行っています。長瀬産業には、ブラインドランナーの和田伸也選手、伴走者の長谷部匠選手が所属しています。東京2020パラリンピック競技大会1500m(T11)で銀メダル、5000m(T11)で銅メダルを獲得。また2023年大阪マラソンにて2時間24分29秒で世界記録(T11)を更新するなど、世界を舞台に活躍しています。



障がい者の雇用促進

ナガセミライ株式会社

ナガセケムテックス(株)は、障がいのある方や働き続けたい高齢者に向け、安全・安定・安心な働く機会を提供し、地域社会へのつながりを深めるため、2023年4月3日に100%出資子会社の「ナガセミライ株式会社(以下ナガセミライ)」を設立し、同年5月に兵庫県たつの市で初めてとなる特例子会社に認定されました。

ナガセミライでは「あらゆる“つながり”に温もりを提供する」というパーパス(志)のもと、ナガセケムテックス(株)播磨事業所内で庶務・清掃などの受託サービスを開始します。将来的には、地域課題に寄り添いつつ、農産物の生産・加工・販売を含め、さらなる働く機会の拡充を目指します。



特例子会社に認定



地域の清掃の様子

陸上競技大会「NAGASEカップ」の特別協賛

2022年より、(社)日本パラ陸上競技連盟が主催する「WPA公認 NAGASEカップ陸上競技大会」(以下、「NAGASEカップ」)への特別協賛を通じた社会貢献活動に取り組んでいます。2023年9月には、第2回NAGASEカップが国立競技場で開催されました。

NAGASEカップは、「誰もが参加できるインクルーシブな大会」をコンセプトに掲げており、障がいの有無や年齢、国の垣根を超えてアスリートが競い合う陸上競技大会です。2023年は、国内外からパラアスリート約450名を含む1,424名の選手が出場し、世界記録を初め多くの記録が誕生しました。2日間で延べ約6,600名が来場し、新設した小学生の部では、120人の子どもたちが元気いっぱいにグラウンドを走る姿に大きな声援が送られました。大会期間中は、大会コンセプトに共感する声や、来年も参加したいといったコメントが多くの選手・観客の方々から寄せられました。また、大会にはNAGASEグループ社員など約50名がボランティアで参加し、大会運営のサポートを行いました。

NAGASEグループは、2018年にブラインドランナーの和田伸也選手を社員として迎えてから、さまざまなスポーツ支援や

関連するイベント開催を行ってきました。障がいの有無に関わらず記録に挑むアスリートの気概やその活躍が社会に与える影響を体感してきたからこそ、社会に提供できるものは何かと考えスタートしたのが、NAGASEカップです。今後もアスリート、観客、ボランティアの誰にとっても「新しい体験、価値観との出会いの場」として本大会が成長していけるよう、「安心・安全で温もりある社会」の実現に向けた取り組みの一つとして継続して取り組んでいきます。

